

りんくう総合医療センター麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記されている。

りんくう総合医療センターには、大阪府泉州救急救命センター、泉州広域母子医療センター、心臓センター、重症外傷センター、急性期外科センター、脳神経センター、脊椎センター、人工関節センターなどがあり、難度の高い手術麻酔症例が豊富に存在する。こうした当センターの特長を活かし、各種麻酔領域の症例数を十分経験すると共に、集中治療、救命救急、ペインクリニック、緩和医療など、専攻医の希望するサブスペシャリティに、リンクしていくことも可能な研修プログラムを提供する

(りんくう総合医療センターは、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本集中治療医学会専門研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、心臓血管麻酔専門医認定施設に指定されており、それぞれの専門医資格を取得することが可能)。

関西圏内の病院と連携し、フレキシブルに運用することにより、状況に応じて研修内容の強化（特殊な麻酔管理を必要とする症例等）、医療資源の乏しい環境での麻酔業

務なども可能とする。また希望者は、大阪大学医学部附属病院、自治医科大学埼玉医療センター集中治療部、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、姫路医療センター、西宮渡辺心臓脳・血管センターへ短期集中研修に行くこともできる。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間は、専門研修基幹施設で主として手術麻酔の研修を行う。専門研修基幹施設では、特殊麻酔症例を含む多種多様な麻酔症例を経験できる。
- 研修3、4年目には専門研修基幹施設で、ペインクリニック、緩和治療や集中治療を含む様々な症例を経験する。専攻医の希望により、当センター内の大阪府泉州救命救急センターにおいて、集中治療、外傷を主とした緊急麻酔、救命救急の研修を行うこともできる。また、専攻医のニーズにより、連携施設の大阪大学医学部附属病院、自治医科大学埼玉医療センター集中治療部、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、姫路医療センター、西宮渡辺心臓脳・血管センターで短期研修を行うことも可能である。
- 専門研修連携施設Aの大阪大学医学部附属病院では、集中治療を中心とした研修を受けることができる。
専門研修連携施設Aの国立成育医療研究センターでは、小児麻酔・産科麻酔を中心とした研修を受けることができる。
専門研修連携施設Bの自治医科大学埼玉医療センター集中治療部では、集中治療研修を受けることができる。
専門研修連携施設Bのあいち小児保健医療総合センターでは、小児麻酔・産科麻酔研修を受けることができる。
専門研修連携施設Bの姫路医療センターでは、呼吸器外科手術、脳神経外科手術の麻酔などが数多く経験できる。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	りんくう総合医療センター (主に手術麻酔)	りんくう総合医療センター (主に手術麻酔)	りんくう総合医療センター (ペイン, 緩和、集中治療、救命救急) 希望者は大阪大学医学部附属病院、自治医科大学埼玉医療センター集中治療部、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、姫路医療センター、西宮渡辺心臓脳・血管センターでの研修	姫路医療センター and/or りんくう総合医療センター 希望者は大阪大学医学部附属病院、自治医科大学埼玉医療センター集中治療部、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、姫路医療センター、西宮渡辺心臓脳・血管センターでの研修
B	りんくう総合医療センター (主に手術麻酔)	りんくう総合医療センター (主に手術麻酔)	りんくう総合医療センター (ペイン, 緩和、集中治療、救命救急) 希望者は大阪大学医学部附属病院、自治医科大学埼玉医療センター集中治療部、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、姫路医療センター、西宮渡辺心臓脳・血管センターでの研修	りんくう総合医療センター (ペイン, 緩和、集中治療、救命救急) 希望者は大阪大学医学部附属病院、自治医科大学埼玉医療センター集中治療部、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、姫路医療センター、西宮渡辺心臓脳・血管センターでの研修

C	りんくう総合医療センター (主に手術麻酔)	りんくう総合医療センター (主に手術麻酔)	姫路医療センター and/or りんくう総合医療センター 希望者は大阪大学医学部附属病院、自治医科大学埼玉医療センター集中治療部、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、姫路医療センター、西宮渡辺心臓脳・血管センターでの研修	姫路医療センター and/or りんくう総合医療センター 希望者は大阪大学医学部附属病院、自治医科大学埼玉医療センター集中治療部、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、姫路医療センター、西宮渡辺心臓脳・血管センターでの研修
D	りんくう総合医療センター (主に手術麻酔)	りんくう総合医療センター (主に手術麻酔)	姫路医療センター and/or りんくう総合医療センター 希望者は大阪大学医学部附属病院、自治医科大学埼玉医療センター集中治療部、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、姫路医療センター、西宮渡辺心臓脳・血管センターでの研修	りんくう総合医療センター (ペイン、緩和、集中治療、救命救急) 希望者は大阪大学医学部附属病院、自治医科大学埼玉医療センター集中治療部、国立成育医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、姫路医療センター、西宮渡辺心臓脳・血管センターでの研修

週間予定表

りんくう総合医療センターの一例（研修3年目ペインクリニック・緩和専攻時の一例）

	月	火	水	木	金	土	日
朝	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討	論文抄読会		
午前	ペイン外来	手術室	ペイン外来	ペイン外来	ペイン外来	休み	休み
午後	手術室	透視下ブロック	緩和回診	手術室	脊髄刺激装置埋込	休み	休み
夕	術前診察・勉強会	麻酔科カンファ	術前診察・勉強会	周術期管理センター	術前診察		
夜			麻酔待機				

*心臓外科カンファ：毎週火曜日（心臓外科医、臨床工学士、看護師とともに）

*多職種カンファ：毎月第1, 3水曜日

*クリニカルレベルアップセミナー：毎月開催（各科持ち回り）

*CPC：毎月開催

*医療倫理研修会・医療安全研修会・院内感染対策研修会：各々定期開催

*医療英会話研修：毎月開催

*日本麻酔科学会・日本臨床麻酔学会は必ず参加。他の各種学会、研究会等も、専攻医は優先的に参加する権利を持つ。

*麻酔科専門医取得に必要な学会発表は必ず行う。

*麻酔科待機当番：平均週1日程度（月一回の週末含む）。1-2年目は上級医との2人制。3年目後半から徐々に独り立ちする。

*周術期管理センター：麻酔科医、手術室看護師、口腔外科医、院外開業医（歯科）、薬剤師、リハビリテーション部、栄養士、主治医、緩和ケア、事務（地域医療）が参加

文献・教材等

* 麻酔関連：

Anesthesiology, British Journal of Anaesthesia, Anesthesia and Analgesia, Journal of Anesthesia, Regional Anesthesia and Pain Medicine, Lisa, 麻酔, 臨床麻酔の各雑誌は、麻酔科医師室内に常備。

* 主要医学雑誌：

Lancet, New England Journal of Medicine, Circulation, Journal of American Medical Association, Critical Care Medicine等、洋雑誌50誌以上、邦雑誌100誌以上を院内オンラインに常備。

* シミュレーションセンター：

経食道超音波シミュレーター、麻酔器、中心静脈穿刺シミュレーター、気管内挿管用入形、心肺蘇生用シミュレーターなどを常備。

専攻医の習得すべき学問的姿勢

* 専攻医は積極的に勉強し、麻酔領域を中心とした幅広い知識、技能を身につけること。

* 麻酔領域では、「ミラー麻酔科学」、「周術期管理チームテキスト」などの基本的な教科書に沿って体系的な学習を行う他、毎週麻酔科内で行われる論文抄読会に参加する。論文抄読会では、Anesthesiologyを始めとする洋雑誌や、時には麻酔領域以外の文献も読み込んでいく。また定期的な症例検討会でも発表を行う。

* 院内の多職種カンファレンス、他科との合同カンファ、医療倫理・医療安全・院内感染対策研修会等にも必ず参加する。

* 日本麻酔科学会・日本臨床麻酔学会は必ず参加。他の各種学会、研究会等も、専攻医は優先的に参加する権利を持つ。麻酔科専門医取得に必要な学会発表は必ず行う。

* 研修計画：麻酔科内では毎週、論文抄読会、症例検討会を行うので、専攻医は必ず参加する。専攻医初めの2年以内に、学会発表や論文執筆を必ず行う。院内で行われる、多職種カンファレンス、他科との合同カンファ、医療倫理・医療安全・院内感染対策研修会等にも必ず参加する。

研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター

研修プログラム統括責任者：小林俊司

専門研修指導医：小林俊司（麻酔，区域麻酔，臨床研究，手術室運営）

神移 佳（麻酔，ペイン，区域麻酔，集中治療，臨床研究）

米本紀子（麻酔，ペイン，区域麻酔，緩和，臨床研究）

専門医：久保直子（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔）

水田大介（麻酔，心臓血管麻酔）

林 文昭（麻酔，ペイン，区域麻酔，心臓血管麻酔）

熊野景太（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔）

小野洋平（麻酔）

林 大貴（麻酔，小児麻酔）

（※麻酔科認定病院番号812）

特徴：泉州地域で中心的な役割を果たす手術施設。救命救急センター・周産母子センターなど併設。ペインクリニック、緩和医療、集中治療、救命救急のローテーションも可能。

② 専門研修連携施設A

研修プログラム統括責任者：山本 俊介

専門研修指導医：高階 雅紀（麻酔）

松田 陽一（麻酔・ペインクリニック）

久利 通興（麻酔）

井口 直也（麻酔・集中治療）

高橋 亜矢子（麻酔・ペインクリニック）

入嵩西 毅（麻酔）

平松 大典（麻酔）

井浦 晃（麻酔）

山本 俊介（麻酔）

前田 晃彦（麻酔）

須田 万理（麻酔・緩和医療）

徳平 夏子（集中治療）

小山 有紀子（麻酔・集中治療）

山下 智範（集中治療）

榎谷 祐亮（集中治療）

橋本 明佳 (集中治療)
岩田 博文 (集中治療)
木西 悠紀 (産科麻酔)
専門医：黒田 真理子 (産科麻酔)
和田 愛子 (小児麻酔)
松村 佳織 (心臓血管麻酔)
竹山恵梨子 (麻酔)
駒田 暢 (集中治療)
弓場 智雄 (麻酔)
林 優里 (心臓血管麻酔)
相山 佑樹 (集中治療)
新井弓紀子 (心臓血管麻酔)

麻酔科認定病院番号：49

特徴：

- ・あらゆる診療科があり、基本的な手術から複雑な手術、ASA 1～6の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。
- ・2年間の在籍で経験必要症例の規定数の達成が可能である。
- ・最新の手術に対応した最先端の麻酔や無痛分娩を含む産科麻酔についても経験することが可能である。
- ・手術麻酔、集中治療、ペインクリニック等の麻酔に関連するあらゆる分野を経験することが可能である。

麻酔科管理症例 7418 症例

③ 専門研修連携施設A

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

研修実施責任者：糟谷周吾

専門研修指導医：糟谷周吾 (小児麻酔)

大原玲子 (産科麻酔)

馬場千晶 (小児麻酔)

蜷川 純 (小児麻酔)

山下陽子 (産科麻酔)

古田真知子 (小児麻酔)

松永 渉 (産科麻酔)

浦中 誠 (小児麻酔)

橋谷 舞 (小児麻酔)

阿部真友子 (産科麻酔)

伊集院亜梨紗（産科麻酔）

阿部まり子（小児麻酔）

壺井 薫（小児麻酔）

永田沙也（小児麻酔）

久米澄子（産科麻酔）

河村彰久（小児麻酔）

（※麻酔科認定病院番号 87）

特徴：

- ・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）の周術期管理を習得できる。
- ・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
- ・小児の肝臓移植、腎移植、小腸移植、心臓移植の周術期管理を習得できる。
- ・小児がんセンター、緩和ケア科があり、小児緩和医療を経験できる。
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。
- ・麻酔科管理症例 6245 症例

④ 専門研修連携施設B

自治医科大学附属さいたま医療センター

研修実施責任者：大塚祐史

専門研修指導医：大塚祐史（心臓麻酔、救急医療）

飯塚悠祐（麻酔、集中治療）

佐藤和香子（麻酔、ペインクリニック）

松野由以（麻酔、ペインクリニック）

瀧澤 裕（緩和ケア、ペインクリニック）

仲富 岳（麻酔・医学教育）

宮澤恵果（小児心臓麻酔）

吉永晃一（心臓麻酔、集中治療）

専門医：北島明日香（小児麻酔、産科麻酔）

渡部洋輔（麻酔、集中治療）

網谷静香（心臓麻酔）

（※麻酔科認定病院番号 961）

手術室では、心臓大血管手術、呼吸器外科手術を数多く経験できる。また、重篤な併存症を有する患者の麻酔管理を行う機会も豊富。

独立型ICUでは、幅広い疾患の患者管理を経験することができる。特に機械的補助循環（ECMO、IMPELLA、IABP、CRRTなど）の管理、重症呼吸不全の呼吸管理を、数多く経験できる。

救命救急センター、ICU、麻酔科は、密接に連携しており、合同カンファレンスも行われている。

詳しくは下記ホームページを参照のこと。

<http://jichi-saitama.jp/icu/training/>

⑤ 専門研修連携施設B

あいち小児保健医療総合センター

研修実施責任者：宮津光範

専門研修指導医：宮津光範（小児麻酔、小児集中治療、医療経済学）

山口由紀子（小児麻酔、産科麻酔）

加古裕美（小児麻酔）

小嶋大樹（小児麻酔、シミュレーション医学、臨床疫学）

渡邊文雄（小児麻酔、小児心臓麻酔）

青木智史（小児麻酔、小児集中治療）

専門医：北村佳奈（小児麻酔、小児心臓麻酔）

一柳彰吾（小児麻酔、QI）

川津佑太（小児麻酔、シミュレーション医学）

山内佑允（小児麻酔、小児集中治療、臨床疫学）

（※麻酔科認定病院番号 1472）

特徴：すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。硬膜外無痛分娩を含む産科麻酔も経験可能である。

<当センターの強み>

A. 国内および国外小児病院出身の小児麻酔認定医から直接指導が受けられる。北米式の先進的な麻酔シミュレーション、レクチャーおよびケースカンファレンスを効率的に組み合わせた独自の教育プログラムを実践している。

B. 小児麻酔技術の習熟に最適な泌尿器科や眼科の短時間手術症例が多く、短期間で効率よく経験値を上げることができる。仙骨硬膜外麻酔や末梢神経ブロックにも力を入れている。

C. 当センターは小児心臓病センターを併設した心臓血管麻酔専門医認定施設である。新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が増加中であり、東海北陸地方トップクラスのハイボリュームセンターである。小児TEEに習熟した心臓血管麻酔専門医の

指導を受けながら、充実した心臓麻酔研修が可能である。センター内に3台の小児用EXCORを保有しており、心臓移植待機目的のLVAD管理を実施している。

D. 臨床研究および英文論文執筆を含む研究指導にはとくに力を入れている。年間を通じて生物統計疫学セミナーを開催しており、フェローは臨床業務を離れて毎回受講可能である。英文論文投稿まで責任をもってサポートする体制となっている。名古屋大学医学部連携大学院を小児センター内に併設しており、当センターで勤務しながら「博士（医学）」の学位取得が可能である。

E. 東海北陸地方最大規模となる16床のclosed-PICUは、専属チームにより管理されている。日本最大級のECMO症例数を誇る小児ECMOセンター機能を有しており、治療成績は極めて良好である。PICUにも麻酔科医が複数名在籍しており、相互研修が可能である。

⑥ 専門研修連携施設B

独立行政法人 国立病院機構 姫路医療センター

研修実施責任者：長谷川琢

専門研修指導医：長谷川琢（麻酔，手術室運営）

専門医：篠原康介（麻酔，集中治療）

（※麻酔科認定病院番号 1739）

特徴：呼吸器外科手術が多い。呼吸器外科症例数年間500以上は全国トップクラス。

⑦ 専門研修連携施設B

医療法人渡辺医学会 西宮渡辺心臓脳・血管センター

研修実施責任者：木山亮介

専門研修指導医：木山亮介（麻酔，心臓血管麻酔）

専門医：和田 努（麻酔，心臓血管麻酔）

藤本智子（麻酔，心臓血管麻酔）

（※麻酔科認定病院番号 1988）

特徴；循環器専門病院

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2023年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、りんくう総合医療センター麻酔科専門研修プログラムの website, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター 麻酔科
手術室長兼麻酔科主任部長 小林俊司 (こばやし しゅんじ)
e-mail : s-kobayashi@rgmc.izumisano.osaka.jp

〒598 - 8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地23

TEL: (072) 469 - 3111 FAX : (072) 469 - 7929

病院ホームページ : <http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/>

麻酔科ページ : <http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/department/anesthesiology1/>

麻酔科専攻医募集ページ : http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/recruit/sr/dp_ane.html

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果 (アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

□ 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。

□ 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- ・専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- ・出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- ・妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。

・2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- ・専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。

- ・専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- ・専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院として姫路医療センターなどの連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な

労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。